

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472200134
法人名	医療法人 社団 川越伊藤病院
事業所名	グループホーム かわごえ
所在地 (電話番号)	三重郡川越町豊田299-1 (電話) 059-363-4103
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 12 月 13 日(木)

【情報提供票より】(H19年11月28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	8 人	常勤 3人, 非常勤 5人, 常勤換算 3.2人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(管理費)1日1,000 円	その他の経費(月額)	31,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,360円		

(4)利用者の概要(11 月 28 日現在)

利用者人数	5 名	男性 名	女性 5 名
要介護1		要介護2	名
要介護3	1 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 83.6 歳	最低 66 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 里仁会 二宮病院 陣田歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

三重県下で初のグループホームとのことである。当初から定員は5名で、少人数というのも珍しい。現在の利用者のほとんどが車椅子生活者で介護度のレベルが高いが少人数なので、手の届く顔の見えるケアが実践されている。代表者が医師で、事業所と同じ建物内で居住されて、利用者も職員も安心して生活を送っている。また、代表者は、医院を始め、老人保健施設、特別養護老人ホーム、通所介護、ケアハウスなどを運営され、医院の中に事業所があり、老人保健施設は道路ひとつ隔てた近い所に所在して、医療や福祉の連携がきわめてよい体制である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年指摘された改善点について、職員間で話し合われた。見た書類への押印、介護計画の見直しや書き方など改善がされている。しかしながら、ハード面での改善(浴槽の深さ等)や地域との交流の促進等については、今後の課題である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>本年度の自己評価は、全職員で取り組みがされた。改善点の検討とあわせて、気づき、見直しのきっかけとなり全職員で共有できた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は19年3月末に1回開催されたが、それ以降開かれておらず早急の取り組みが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者が少人数で、それぞれの家族事情をよく把握しており、毎月必ず家族の面会があり、家族とのコミュニケーションはよい。さらに家族の思い、意向を把握するためにも、運営推進会議に家族代表も入ってもらい、思いを表出できるよう期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の知り合いの方から、お花が届けられたり、差し入れをもらって一緒にお茶を飲んで談笑することもあるが、事業所から地域に出ることがない。事業所から地域へ出かける機会を作られるよう期待する。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来から掲げられている理念「穏やかに健康で明るい生活を送りましょう」のもと、ケアが実践されているものの、地域密着型サービスとしての認識がまだ少ない。	○	この事業所は県下先駆けのグループホームであり、少人数の利点を活かし、母体の系列で展開されている医療、福祉をつないだ地域密着型サービスの意義を踏まえたあり方の検討を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やリビングの目につく所に掲示され、会議等で管理者から話されることもあり、職員はよく理解し認識している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の友人や老健へ入所されている家族の方などがお花を届けてくれたり差し入れなどで訪れてくれるが、利用者が事業所から出かけて地域の方と交流することはない。	○	地域の行事に出向くなど、地域との関わりを構築する対応の工夫が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組みがされた。気づきや見直しにつながり、職員の意識の改革につながった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は19年3月に1回目が開催されて、以降開かれていない。	○	計画を立て、テーマに沿って利用者の家族の参加等柔軟にメンバーを依頼し、継続した会議の開催が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは双方共、書類を提出するなど、担当者へ報告する程度である。	○	行政に事業所の実態を知ってもらうことも大事であり、町に働きかけて、担当者に来てもらうなど町との関係作りの促進を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料金が月1回現金払いとなっており、必ず家族が来訪される。その機会に様子など知らせて家族とのコミュニケーションはよい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に様子を知らせたり、要望を聞くようにしている。特に要望は言われない。	○	意見要望などが出せる機会として、運営推進会議のメンバーに家族の参加が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近、前管理者が体調不調で退職し、利用者が寂しい思いをされた。替わった職員は、ひとり一人に丁寧に挨拶をし、話をしながら徐々に馴染んでもらうよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列の老健での研修に参加したり、県のグループホーム連絡協議会に加入しており、そこでの研修にも順次参加している。資格取得を目指し、本年度ケアマネに合格された職員もいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での交流、町のサービス事業所連絡協議会への参加、系列の事業所との交流がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	少人数の利点で、一人ひとりに寄り添ったケアが実践され、また医師がいつもいてくれる安心感もあり、違和感なく事業所での生活に馴染まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歩行訓練には職員と一緒に取り組んで、達成感を共有している。利用者が経験したつらかったこと、楽しかったことなどを傾聴し、昔の生活を教えてもらうこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	レクリエーションやおやつ時などに急に気分の高揚が激しくなって対応に苦慮することもあるが、ゆっくり静かに思いを聞き本人の意向に沿うように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員のカンファレンスで話し合わせ、医師と系列の老健の看護師や理学療法士の助言を得て介護計画が作成され、家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3ヶ月に1回されており、状態に変化があるときは、随時の見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	町内にある企業の公園へ弁当持参で花見に行ったり、母体の医院の受診に職員が同行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療機関で、代表者の医師は毎日一回は事業所に来て、利用者の様子をみている。町の老人健康診査を利用して年に一回定期健康診査を受診している。職員はいつでも医師や看護師に相談ができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	24時間体制で代表の医師が常勤されており、系列の医院、老健の看護師など医療との連携ができ、ターミナルに対応可能で、家族とも話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや排泄介助などプライバシーには配慮している。個人情報を書かれた書類等は、所定の場所にカーテンで仕切って見えないように保管がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、起床してから一人ひとりの様子を見て、その日の過ごし方をサポートしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は系列の老健で調理されたものが配達されている。ほとんどがやわらかめに調理され、ペースト状にされている方もいる。利用者全員に食事介助が必要なため、職員はもっぱら介助にあたっている。	○	食べることは五感の刺激にもなり、事業所独自で作れるおやつ作りなどで、利用者とともに食べたい物を考えたり、作ったりする工夫を期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週5日、希望に応じて実施している。入浴がない時は、足浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションで楽しみを支援している。幼児期に経験した言葉遊びやボール遊びなどが利用者のお気に入りである。中には携帯をもって、家族との通信を楽しんでいる方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通院などで外へ出ることはあるが、日常的な外出はほとんどしていない。	○	一日に1回でも外気に触れる環境は大事で、外の芝生の所へベンチ等を置いてそこまで出て行ける支援など、利用者家族の協力も得ながら、外へ出る支援を期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけられていない。また、管理者も鍵をかける弊害をよく理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	本年3月に消防署と系列の協力を得て、避難訓練が実施された。	○	今後さらに、地域住民の方の協力を得た、夜間訓練も想定した避難訓練の実施を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は系列の老健の栄養士による献立で提供しており、また摂取量は個別に記録をしている。水分補給は、食事やおやつの時、風呂上がりや就寝前等々には摂るよう心がけている。ジュースは利用者の好物である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節折々の花を飾るなどして季節感を感じてもらっている。今はクリスマス飾りやポインセチアがリビングに飾られていた。空気の入れ替えを毎日午前午後としており、気になる臭いは感じられない。2重カーテンで明かりの調節をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にクローゼットが配備され収納されている。ほとんどの方はあまり自分の物を持ち込んでおらず、やや殺風景な居室であった。	○	家族とも相談され、それぞれの利用者らしい居室作りができないだろうか、検討されるよう期待する。